

日本樹木医学会とは

一般社団法人日本樹木医学会は、1992年6月に任意団体として設立された日本樹木医学会を母体とし、2009年7月法人化しました。本会の目的は、樹木医の知識と技術を通じて巨樹、名木等、公園、緑地、森林等の保全、樹木文化の継承・発展およびこれらの普及啓発に関する活動を地域社会と連携して行うことにより、広く環境の保全に寄与することです。多様な活動を行うため東京都内に本部、都道府県単位の支部を設けています

樹木に関わる社会的ニーズは、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、自然災害の防止、青少年の環境教育、心身の健康づくりなど多様化しています。また、地域の実状に照らした取組みが求められています。

そこで、このような社会的役割と責任を認識し、会員の知識や技術さらには見識の向上に努めるとともに、関係機関、地域社会等と連携しながら社会貢献活動の拡充に努めることにより、社会的信頼を一層高め、環境の保全に貢献することを目指しています。

日本樹木医学会の活動

【普及啓発活動】

樹木の保護・保全のための知識・技術や樹木医活動について市民の方々の理解を得るため、樹木相談会、講演会、展示会などを全国各地で開催しています。

【調査研究活動】

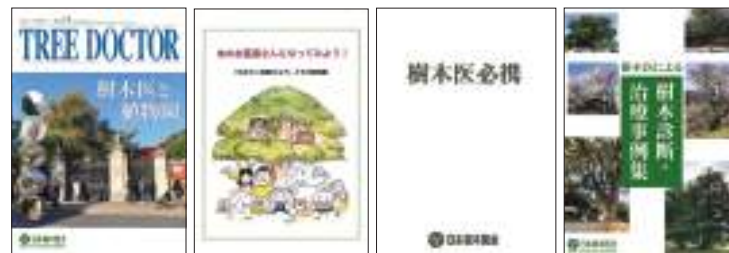
樹木医の豊富な知識と経験を活かし、巨樹・名木の保護や身近な緑の育成などのために、技術指針の作成、樹木病害虫情報の収集など様々な調査研究を行っています。

【研修活動】

会員の最新の知識・技術の修得や見識の向上に資するため、本会及び各都道府県支部において様々な研修を行っています。

【出版活動】

会誌「TREE DOCTOR」(年1回発行)は、各分野の専門家による論文、全国各地の樹木の診断・治療事例などを紹介しています。「木のお医者さんになってみよう!」は木の診断方法を子供向けに分かり易く解説しています。「樹木医必携」は、樹木医が日ごろ必要とする実践技術情報を網羅しています。「樹木医による 樹木診断・治療事例集」は全国から36本の事例を紹介しています。また、今後樹木医を目指す人のために「樹木医研修受講者選抜試験問題集」も発行しています。



【会章】

会章は、フラクタル樹形をモチーフにしています。これは、一定の基礎図形(この場合Y字型)を縮小しながら、繰り返すフラクタルと呼ばれる造形手法で樹形を表したものです。



- 改訂 令和6年(2024年)10月1日
- 発行 一般社団法人 日本樹木医学会
〒113-0021
東京都文京区本駒込6-15-16 六義園第6コーポ 302号
TEL: 03-5319-7470 FAX: 03-5319-7639
ホームページ <https://jumokui.jp/>
- 編集 企画部会
- イラスト 細縦聡子
- デザイン 竹田みどり
- 表紙写真 上から戸隠神社(長野県)、北の丸公園(東京都)、北海道大学(北海道)



私たちの願い

大気に包まれた水と緑の惑星・地球では、その豊かな自然環境の恩恵のもと、私たち人類やさまざまな生物が共存し、多様な地球生態系を作っています。

これを支えている主役のひとつが樹木です。

樹木の一本一本が太陽のエネルギーを受け、二酸化炭素を吸収・固定して有機物を生産し、緑や花が心にうるおいをもたらすなど、私たちの暮らしを支える大切な働きをしています。

温暖化の進行、絶滅・絶滅危惧種の増加、オゾン層の破壊、砂漠化の拡大など、地球規模での環境変化が問題視されている現在、巨樹・名木、里山や都市近郊林の樹木、街路樹や公園樹、庭園などそれぞれの存在と役割はますます大きくなっています。

この大切な樹木の生育状況、これまでの人とのかかわり等を幅広く調査し、診断・治療を行うなど、様々な活動に取り組み、自然環境の保全に努めています。

また、樹木との共生の歴史とその遺産を樹木文化ととらえ、各地域の人々とも力を合わせ、それを継承し、発展させていく事もめざしています。

みんなの貴重な緑の財産を未来へと確かに伝えていくこと、それが私たちの願いです。



【樹木医は木のお医者さん】

樹木医制度は、1991年に林野庁の補助事業として(財)日本緑化センターにより始められました。日本全国、北は北海道から南は沖縄まで、現在日本樹木医会には約2,400名が所属して活躍しています。

樹木医とは、樹木の診断と治療、後継樹の保護育成や樹木保護に関する知識の普及および指導を行う専門家です。いわば樹木のお医者さんです。専門的な知識や豊富な経験に基づいて全国各地の貴重な巨木・名木・古木などをはじめ、庭木や街路樹、公園や緑地にある身近な樹木の診断と治療に携わっています。地域の緑のアドバイザー、環境教育者としても大いに活躍しています。

樹木と生きる



名護のひんぷんガジュマル (沖縄県)
台風の通り道にあっても旺盛な生命力がのびやかな樹冠を維持



ブナ (山梨県富士河口湖町)
落葉が水を涵養し、実は獣を養い、森林には巨樹が行む



アメリカスズカケノキ (日比谷公園・東京都)
明治初期に植えられ、子孫は全国の公園や街路樹に活用



庄川桜 (エドヒガン・岐阜県高山市)
ダム湖に沈む古木を電源開発事業者の高碓達之介と桜愛好家の笹部新太郎が移植



野宿の大銀杏 (福岡県飯塚市)
全国の長寿のイチョウと同様に、この木はこの地の来し方を継承



三百年の松 (浜離宮恩賜庭園・東京都)
徳川家から東京都の庭園となり、幾世代の人々の支えが雄大な樹形を創出

